

1 組織

- (1) 東京都立松原高等学校 学校運営連絡協議会（定時制課程）
- (2) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭（生活指導部主任、進路指導部主任、第1学年主任）、主任教諭（教務部主任、総務部主任） 計8名
- (3) 協議委員の構成
学識経験者（大学学部長他）、警察署（係長）、消防署（所長）、地域自治会（副理事長他）
PTA会長、同窓会会長、校長が認める者（教育関連企業事業部長） 計12名

2 令和4年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会
 - ア 第1回 令和4年6月17日（金）対面にて開催
協議委員委嘱、評価委員選出、令和4年度学校経営計画説明
 - イ 第2回 令和4年12月7日（水）対面にて開催
上半期の進捗状況報告、学校評価アンケート説明
 - ウ 第3回 令和5年3月23日（木）対面にて開催
教育目標達成に向けた取組報告、学校評価アンケート集計結果報告
- (2) 評価委員会
 - ア 第1回 令和4年12月7日（水）対面にて開催
学校評価アンケートの質問内容について検討、集計スケジュール確認
 - イ 第2回 令和5年3月23日（木）対面にて開催
学校評価アンケートの集計結果における分析及び検証について

3 学校評価アンケート調査報告

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の課題解決に対する意欲」「学校の取組」「学校の成果」
- (2) 実施時期・対象・回答数
 - ア 2月 全校生徒 対象：574名 回答：187名（回答率 33%）
 - イ 2月 全保護者 対象：574名 回答：125名（回答率 22%）
 - ウ 2月 地域 対象：20名 回答：0名（回答率 0%）
 - エ 2月 教員 対象：36名 回答：28名（回収率 78%）
- (3) 評価項目
「学校生活全般」「学習指導」「生活指導」「進路指導」「スクールカウンセラー」「給食」「学校ホームページ」「学校施設」「ライフ・ワーク・バランス」の9領域25項目
- (4) 評価結果の概要
各評価結果を集計し、肯定的及び否定的な傾向、生徒・教員・保護者の意識傾向差を確認した。

(5) 評価結果の分析・考察

今年度から調査方法を「アンケート用紙への記述回答」から「FORMS による入力回答」に変更した。全体的な傾向として「回答者割合の激減」と「否定的回答割合の増加」が挙げられる。「通信端末機器アプリへの不対応」と「筆跡が残る『記述回答』より率直な意見反映」の結果と考えられる。

ア 全校生徒

「学校生活」「学習指導」「学校行事」「部活動」に対して肯定的回答が多い。学校生活を楽しく過ごし、本校に入学して良かったと感じている生徒が大半である。「家庭学習」「ボランティア活動」「遅刻」等の改善を図っていくことが来年度への課題である。

イ 保護者

「学校生活」「生活指導」「学校行事」「進路指導」に対して肯定的回答が多い。ただし、保護者からの回答者割合が激減した。HP の更新、保護者会、面談など保護者に向けた情報発信や連携の手段をさらに検討していく必要がある。

ウ 地域

下高井戸商店街振興組合を通して地域への依頼となったが、回答方法を「FORMS による入力回答」に変更したことにより回答者は0人となってしまった。今後、アンケートの回答方法を従来の「アンケート用紙への記述回答」に戻すことも検討しなければならない。

今年度は防災訓練を外部と連携して実施した。文化祭などの学校行事は外部公開としなかったため地域の人に対して情報発信をすることができなかった。地域に対しての情報発信や連携などを工夫して行くことが課題である。

エ 教員

全員からの回答集計できなかったことは一番の課題であるため、来年度は実施時期や実施方法を改善する。肯定的回答が過半数を占めるが、「生活指導」「生徒の遅刻」「生徒のボランティア活動」について否定的な回答が多い。教職員の組織的な取り組みにより生活指導や特に遅刻指導の改善を図る。

4 成果と課題

(1) 成果

ア 保護者の肯定的な回答が高い割合である。

アンケート回答方法の変更により回答率は昨年度より激減してしまった。そのような状況ではあるが保護者の肯定的な回答が高い割合である。

イ 保護者と教職員の学校生活満足度

学校生活に関する満足度については、教職員、生徒、保護者それぞれが肯定的な回答が多い。授業や学校生活、生活指導や進路指導において信頼できる学校として保護者は捉えている。

(2) 課題

ア 「アンケート回答者割合の激減」と「否定的回答割合の増加」

今年度から調査方法を「アンケート用紙への記述回答」から「FORMS による入力回答」に変更した。全体的な傾向として「回答者割合の激減」と「否定的回答割合の増加」が挙げられる。「通信端末機器アプリへの不対応」と「筆跡が残る『記述回答』より率直な意見反映」の結果と考えられる。

イ 地域との交流

下高井戸商店街振興組合を通して地域への依頼となったが、回答方法を「FORMS による入力回答」に変更したことにより回答者は0人となってしまった。今後、アンケートの回答方法を従来の「アンケート用紙への記述回答」に戻すことも検討しなければならない。

近隣の大学や地元商店街と連携を図っている。地域の人たちに更に信頼される学校づくりを取り組んでいくために今後も継続的に評価委員と協議を行い、回答しやすいアンケートだけではなく、本校の諸活動を理解してもらえるように地域に根差した情報発信も工夫する必要がある。

5 学校運営連絡協議会や学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

「人格の完成を目指し、有為な社会人を育成する」を教育目標とし社会に貢献する人材を育成する。

(2) 学習指導

「カリキュラム・ポリシー」を踏まえた学習指導の充実を図り、生徒の学力を向上させる。授業規律を確立した学習指導を行うことで、生徒が主体的に学習に取り組む態度を育成する。

(3) 生活指導

遅刻の防止、挨拶の励行、正しい身だしなみの指導を行い、ルールやマナーを遵守する態度を育てると共に、いじめを根絶する生活指導を推進する。

(4) 特別活動

部活動と学校行事の活性化より、自他を認め合い尊重する意識を高め、主権者として、公共の精神を尊ぶことのできる生徒を育成する。

(5) 進路指導

生徒の社会的・職業的自立に向けて必要な進路指導を推進する。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合（協議委員12名）

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
						12

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

特になし